

テモテへの手紙第二 4 章 1～8 節 良き戦いを戦い抜く

教会の皆さん、おはようございます。今日の聖書箇所は、パウロが、「**信仰による、真のわが子（テモテへの手紙 第一 1:2）**」と呼んだテモテに宛てた第二の手紙の結びの部分です。この手紙は、新約聖書に収められた使徒の最後の著作であり、彼がローマで殉教する直前に書かれた手紙であると、伝統的に解釈されてきました。異邦人へ遣わされた使徒パウロは、すでに「**犯罪者のようにつながれています**」（テモテへの手紙 第二 2:9）。この最後の章の 6 節で、パウロは次のように書いています。「**私が世を去る時が来ました。**」（テモテへ手紙 第二 4:6）。要するに、私たちが学んできたのは、死を目前にした人からの最期の手紙なのです。もし皆さんが愛する人に宛てて最期のメッセージを書くとしたら、何を書くでしょうか？何を強調するでしょうか？いよいよ旅立つ前に、どのような最期の言葉や教えを残すでしょうか？おそらく私たちの多くは、自分が最も大切だと考えることをそこに書くのではないのでしょうか。この手紙の中で、私たちはパウロの最後の勧めや教えを数多く見てきました。そして、この第四章、最後の章は、彼が「信仰によるわが子」と呼ぶテモテに宛てた二通の手紙のクライマックスに当たります。ここで私たちが見るのは、信仰を固く守り抜くようにとの最期の呼びかけです。「**勇敢に戦い抜き**」なさいという呼びかけです。「**信仰を守り通し**」なさいという呼びかけです。皆さんもお手元に聖書をお持ちであれば、私と一緒にテモテへの第二の手紙 4 章 1～8 節を開いてください。この機会に、礼拝の際にはぜひ聖書を持参し、実際に開いて御言葉を共に味わっていただきたいと思います。御言葉を広い文脈の中で読むことによって、より大きな恵みを受けることができると私は考えております。また、座席に備え付けの聖書を用いてくださっても結構です。ページ番号は週報に記載されています。では、テモテへの第二の手紙 4 章 1～8 節を読みましょう。まず、この最後の章の 1 節を読みましょう。パウロは次のように書いています。**1 神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。**このクライマックスの部分で、パウロは最期の命令、最期の厳粛な勧め、そして最期の指示を与えています。この命令には二つの特徴が表されています。第一に、それは単なる人間の勧めではなく、神ご自身からの命令なのです。「**神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で**」と記されていることから、この命令はパウロ自身の思いつきではなく、神ご自身から与えられたものだということがわかります。この言葉は神によって与えられたものであり、他の聖書箇所と同様に、「**神の靈感によるもの**」（テモテへの手紙 第二 3:16-17）なのです。第二に、この命令は王としての命令です。「**その現れとその御国を思いながら**」とあるように、それは王なるイエスの権威と力に基づいています。まさに、それは王からの命令であり、神の国に仕える者たちによって果たされるべきものなのです。ここで使われている「**現れ**」という言葉は、第一章でキリストの初臨を指して用いられていたのを、すでに私たちは見てきました。**第二テモテへの手紙 1 章 9-10 節**には次のように書かれています。**9 神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自分の計画と恵みによるものでした。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられ、10 今、私たちの救い主キリスト・イエスの現れによって明らかにされました。キリストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不滅を明らかに示されたのです。**キリストは初めて来られたとき、私たちの救い主とされました。私たちの身代わりとして十字架にかかり、復活によって罪と死に対して勝利を収められたのです。ここであえて初臨と呼ぶのは、この箇所にある「**現れ**」が、キリストの初臨だけでなく、再臨も含んでいるからです。イエスは、第一節にあるように、「**生きている人と死んだ人をさばかれる**」ために再び来られるのです。2 回目に、キリストが「**現れ**」る時、イエス・キリストは裁き主、そして王として来られるのです。これは私たちが覚えておくべき重要なことです。この命令が神からのものであり、また王としての性質を持つという二つの特徴は、それを極めて重大で重いものとしています。

では、この神からの、そして王としての命令とは何だったのでしょうか。それは二つの部分からなる命令です。最初の命令は二節にあります。**2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。**ここで注目すべき命令の動詞は「**宣べ伝えなさい**」です。これは聖書の中で特別な意味を持つ言葉で、基本的には「**権威をもって公に告げる**」「**王の使者として告げ知らせる**」という意味を持ちます。この「**王の使者**」、伝令とは、王の言葉や勅令を王国のすべての人々に告げ知らせる役目を担った公的な使者のことです。では、テモテが王の伝令として宣べ伝えるべきメッセージとは何でしょうか。それは「**みことば**」です。直前の章、3 章でパウロが説明した、あのみことばです。**第二テモテへの手紙 3 章 16～17 節**には次のようにあります。**16 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。17 神の人がす**

すべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。テモテが幼い頃から親しんできた言葉であり（テモテへの手紙 第二 3:15）、正しく語られるべき「真理のみことば」であり（テモテへの手紙 第二 2:15）、決してつながれてはいない「神のことば」なのです（テモテへの手紙 第二 2:9）。第二テモテへの手紙 2 章 8 節には、**8 イエス・キリストのことを心に留めていなさい。私が伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫として生まれ、死者の中からよみがえった方です、と書かれています。**また、第二テモテへの手紙 2 章 11 節には、**この福音のために、私は宣教者、使徒、また教師として任命されました、**と述べられています。テモテに与えられた務めは、モチベーションを高めるメッセージを語ることも、社会への評論を述べることも、教会の宣伝をすることでもありません。証をすることですらありません。彼に託されたのは神のことばを語ることであり、それだけなのです。そして、そのみことばを語る務めは時が良くても悪くても、果たさなければならないのです。そのときの自分の気分や、聞き手の気分が左右されてはならないのです。困難なときにも、反対や迫害に直面するときにも、神の人は神のことばの真理を宣べ伝え、正しく語らなければなりません。教えのために有益であるからこそ、テモテはみことばを教えるべきなのです。戒めと矯正に役立つからこそ、罪の中にとどまる者を諭し、戒めるために用いるべきなのです。義の訓練のために有益だからこそ、信徒を励まし、教え、導き、良い働きにふさわしく、十分に整えられるよう用いるべきなのです。そして、これらすべては徹底した**忍耐の限りを尽くして**行わなければなりません。さらにパウロは、みことばを忠実に宣べ伝えるべき理由、その背景を **3 節と 4 節**で加えています。**3 というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、4 真理から耳を背け、作り話にそれで行くような時代になるからです。**神の人がみことばを宣べ伝えなければならないのは、人々がそれを拒み、背を向け始めるからです。ここで皆さんが、拒み背を向け始める人として思い浮かべるのは、教会の外にいる不信者かもしれません。しかし、残念ながら、ここで主に指しているのは、信者であると告白しながらも、やがて福音の真理から離れていく者たちのことなのです。彼らは、真理が都合の悪いものであったりすると、耳を背けます。また真理に従うのが難しくなったり、あるいは罪や欲望を手放すように迫られたりすると、耳を背けます。また、**耳に心地よい話を聞こう、**自分に都合のよい部分だけを聞こうとして、神のことば全体の教えに耳を傾けようとしません。その結果、彼らは自分たちに合う教師を選び出すようになります。実際パウロは、このようなことをした者たちの名をすでに挙げています。第二テモテへの手紙 2 章 17~18 節には、**17 その人たちの話は悪性の腫れもののように広がります。彼らの中に、ヒメナイとピレトがいます。18 彼らは真理から外れてしまい、復活はすでに起こったと言って、ある人たちの信仰をくつがえしています、**と述べられています。彼らは真理を捨てて、神話や偽りの教えに置き換えてしまいました。しかしテモテは彼らようになってはならないのです。彼は、すべての神の靈感による聖書にある真理と健全な教えに忠実な説教者でなければならないのです。

ではこのあたりで立ち止まり、テモテに与えられたこの命令の第一の部分について少し振り返ってみましょう。これは主に、教会で牧会し、説教をするように召された人々に当てはまります。すなわち、「真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることの無い働き人」（テモテへの手紙 第二 2:15）、あるいは、「主のしもべ」（テモテへの手紙 第二 2:24）と呼ばれる人々に当てはまることです。彼らは特に神に召され、神の民のために御言葉に仕えて働くように召されているのです。それなら、こんなふうに見つける人もいでしょう。「でも JP、私は牧師でも説教者でもありません。この命令は自分にはどう関係するのですか？」と。実際、牧会や説教の務めに召されていない人にとっても、この命令が当てはまる少なくとも二つの側面を挙げることができます。第一に、説教は特別な公式の務めであり、すべての人が説教者となるわけではありませんが、それでもすべてのクリスチャンは御言葉を他の人々に、特に信仰の兄弟姉妹に告げ知らせ、語るように命じられているのです。エペソ人への手紙 4 章 25 節には、**25 ですから、あなたがたは偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。私たちは互いに、からだの一部分なのです、**と述べられている通りです。たとえ困難であっても、罪の中にとらわれているクリスチャンの友を諭す必要がありますし、教会の仲間が過ちを犯しているなら戒める必要があります。私たちは皆、日々の会話においても、互いのために祈るときにおいても、神のことばによって励まし合い、導き合うように召されているのです。私たちはこれを日々、実践しているのでしょうか？これが第一の側面です。第二の側面は、都合のよいことだけを選んで聞こうとする態度を避けるようにとの呼びかけです。忠実な信者は健全な教えをただ我慢して受け入れるだけでなく、それを慕い求めます。クリスチャンは真理を聞くことから背を向けません。あなたは、自分の好むことだけを聞き、一部のみに従う「選り好み」をするクリスチャンになってはいないでしょうか。健全な教えが、まだあなたが手放したくないと感じている罪を指

摘してきた時、あなたは、誤った教えの方へとさまよい出してはいないでしょうか。気をつけてください。私たちは、たとえ不都合に感じられる時や、従うのが難しい時であっても、神のことばを聞き、それに従うことを喜ぶべきです。私たちは皆、教えられ、諭され、正され、義に向かって訓練される者でなければなりません。これこそ、私たち全てに与えられている務めなのです。

5節からは二つ目の命令が始まります。5 **けれども、あなたはどんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。**私はこの「**慎んで**（英語の場合は、「酔ってない状態で（Sober-minded）」）」という訳語が好きです。ここでパウロが示している対比をよく表していると思うからです。酔った人のそばにいたことのある人なら理解できるでしょう。酔った人に理性的な行動や言葉を期待することはできません。簡単に唆されて、愚かなことをするのです。物事を正しく見極め、理解し、行動する力が弱まり、ときには完全に失われてしまいます。パウロはこう言っているのです。「酔った人のようになってはいけない。謹んで、分別をもって考えなさい」と。都合のよい教えだけを求める人々は、作り話や愚かなことに惑わされる酔った人々なのです。しかし、皆さんは、酔った人のように振る舞うのではなく、分別を持ち、冷静でいるべきなのです。苦難に耐え、伝道者の働きをすべきなのです。人々が皆さんに反対し、迫害しても、伝道者の務めを果たすべきなのです。というのも、彼らは真理を憎み、あなたが告げ知らせる福音を拒むからです。しかし、それでもなお、大胆に福音を宣べ伝え続けるべきなのです。ローマ人への手紙 1 章 16 節に、**私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です、**と述べられている通りです。パウロはこれらすべての勧めを、「**務めを十分に果たしなさい**」という簡潔で直接的な言葉でまとめています。これこそが若き牧者であり説教者であったテモテに与えられた命令でした。御言葉を誠実に語り、神の民を忠実に導きなさい。第一の命令と同じように、この第二のテモテへの命令にも理由があるのです。パウロは 6 節に次のように書いています。6 **私はすでに注ぎのささげ物となっています。私が世を去る時が来ました。**ここでパウロが描いているイメージを思い浮かべてみてください。民数記章 7 節には律法において次のように定められています。**それに添える注ぎのささげ物は、子羊一匹につき四分の一ヒンとする。聖所で、主への注ぎのささげ物として強い酒を注ぎなさい。**この儀式においては、その器を神の祭壇に注ぎ、空にすることが含まれていました。パウロの人生もまた、同じように注ぎ尽くされようとしていました。パウロはいまローマで鎖につながれ、この手紙を書いています。そして間もなく、ローマ皇帝によって処刑されることになるのです。この厳粛な命令は、まさに命の尽きようとしている父が子に、あるいは人生の終わりにある教師が弟子に送る最期の言葉なのです。パウロの地上での使命は終わろうとしており、テモテがパウロの始めた使命を引き継ぐのです。このような深い思いの中で、パウロは次の 7 節の言葉を語ります。7 **私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。**パウロは第一テモテへの手紙でも同様のことを述べています。テモテへの手紙第一 6：12 **12 信仰の戦いを立派に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、多くの証人たちの前ですばらしい告白をしました。**第一テモテへの手紙では、これらは明確な命令の言葉でした。しかし、この最期の手紙において、パウロはそれを個人的なものとしています。そこには命令形の動詞もなく、指示や命令の形もありませんでした。しかし、テモテはその言葉を読んで、自分の信仰における父が何を語ろうとしているのかを理解したはずです。それは老いた人の死に際の戯言（たわごと）ではありませんでした。務めを果たし終えようとする人からの、確信に満ちた喜びの言葉でした。そして同時に、それは勧めの言葉でもありました。パウロはこう語っているのです。「テモテ、私はやり遂げた。だからおまえも私のように歩みなさい」と。テモテは確かにそれを聞き取ったと私は信じます。そして私たちもまた、その声に耳を傾けるべきなのです。

第一の命令と同じく、この命令が、牧師や説教者だけでなく一般の信者にも当てはまることは容易に理解できます。この命令に従うために、すべてのクリスチャンが実践できる方法は少なくとも二つあります。第一に、**信者は信仰の先輩である敬虔な人々の模範に従うべきです。**彼らから学び、その信仰と敬虔さを模倣し、彼らの過ちや失敗を避けるべきです。旧約聖書と新約聖書には多くの模範が記録されており、教会史もまた、数え切れないほどの敬虔な男女の証しを伝えています。テモテがパウロから学び、彼に従ったように、私たちも信仰の先輩から同じように学びたいと願うべきです。あなたの人生に、今そのように学ぶことのできる信仰の先輩はいるでしょうか。信仰の先輩たちの生涯から、皆さんは学んでいるでしょうか。第二の方法は似ていますが、その役割が逆になります。もしあなたが教会の長老、説教者、教師であるなら、あるいは開拓伝道者や宣教師であるなら、また子どもを持つ親であるなら、年下の男性を知る

男性、年下の女性を知る女性であるなら、クリスチャンとして敬虔さの模範となることができるのです。先ほど挙げたリストにはすべてのクリスチャンが含まれているはずで—すべての信者は、誰かに敬虔さの模範を示すことができるのです。すべてのクリスチャンは、パウロがテモテにとってそうであったように、誰かにとっての信仰の模範、先輩となれるのです。これこそがキリストにある弟子としての歩みの一部であり、その歩みは自らがキリストの弟子となると同時に、他の弟子を育てることを求めるのです。あなたの人生はクリスチャンとしての敬虔さの模範となっているのでしょうか。神があなたを召された務めを果たしているのでしょうか。キリストの弟子をつくっているのでしょうか。もしこれらの問いに答えられないなら、主に祈り、必要な助けと力を求めてください。

パウロはこの神からの王なる命令を、永遠の命という希望で結んでいます。8 **あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。**祝福、希望はあるのです。それは神ご自身の義であり、最後の日に主ご自身が敬虔な者たちに授けてくださるのです。そしてそれは使徒パウロのためだけではなく、すべての信者、すなわち主の「現れ」を慕い求めたすべての人のために備えられています。冒頭で見た「現れ」という同じ言葉が、ここでもう一度登場します。しかし今度は一つの行為が求められています—それは「慕い求める（愛する）こと」です。最後の裁きの日において、敬虔な者たちは主の「現れ」を慕い求め、その日を待ち望んでいたことが明らかになります。敬虔な人々は救い主としてイエスが来られた最初の「現れ」を愛しただけでなく、裁き主としての二度目の「現れ」（再臨）も慕い求め、その日が来ることを切に待ち望んできたのです。正しい裁き主である私たちの主イエスは再び来られ、生きている者と死んでいる者とを裁かれます。あなたはこの日を恐れているのでしょうか。今朝ここにいて、まだイエスを信じていないなら、恐れるべきです。なぜなら、イエスが再び来られるとき、主は正しい裁き主として現れ、悪を行う者と悔い改めない罪人を罰するからです。マタイの福音書 10：28 **28 からだを殺しても、たましいを殺せない者たちを恐れてはいけません。むしろ、たましいもからだもゲヘナで滅ぼすことができる方を恐れなさい。**その裁きの日には、もはや信じることも悔い改めることも許されません。先延ばしにしてはならないのです。まだ、罪から逃れる道はあります。まだ、神と和解する道はあります。それは、ただ一つの道です。それは、イエス・キリストを信じること、すなわちイエスの十字架での生贄としての死と復活を信じることによってです。信じて罪から離れてください。イエスに自分自身を委ねてください。もしあなたがすでに信じる者、イエスに従う者であるなら、最後の日を恐れる必要はありません。しかし、クリスチャンの皆さんには次の質問をしたいと思います。皆さんはイエスの「現れ」を、最初の「現れ」（初臨）も、二度目の「現れ」（再臨）も、同じように慕い求めているのでしょうか。皆さんは、イエスの十字架での生贄の死に、絶えず感謝しているのでしょうか。そして主の再臨を待ち望んでいるのでしょうか。多くの人は最初の問いには答えられるかもしれませんが、二つ目の問いについてはあまり考えてこなかったのではないのでしょうか。キリストの再臨を待ち望む者となってください。その再臨を心から慕い求める者となってくださいそして私たちの王が再び来られて生きている者と死んでいる者とを裁かれるとき、主はあなたを敬虔な者として見いだされるのでしょうか。あなたは与えられた務めを敬虔に果たしているのでしょうか。皆さんは使徒パウロのように、「**私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました**」（テモテへの手紙 第二 4:7）と自信と喜びをもって告白できるのでしょうか。主イエス・キリストは、正しい裁き主としてまもなく戻って来られます。だからこそ、私たちは勇敢に戦いを戦い抜くべきなのです。走るべき道のりを走り抜くべきなのです。信仰を守り通すべきなのです。先に召された敬虔な聖徒たちのように、主が来られるその時まで、あるいは主が私たちを天に迎え入れられるその時まで、敬虔に歩み続けるべきなのです。そしてついに神と主イエス・キリストの御前に立つとき、私たち一人ひとりがマタイの福音書 25 章 21 節のあの言葉を聞くことができます。21 **「よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」**と。（恵みとあわれみに満ちた主からの、なんと尊いみことばでしょう。祈りましょう。

2 Timothy 4:1-8 Fight the Good Fight

Good morning, church. Today we are coming close to the end of the Paul's second letter to Timothy, his "true child in the faith" (1 Tim 1:2). This letter is traditionally considered to be the apostle's last writing to be included in the New Testament, and written very close to his martyrdom in Rome. Paul, the apostle to the Gentiles, is already "bound in chains as a criminal" (2 Tim 2:9). He writes in verse six of this last chapter: "the time of my departure has come" (2 Tim 4:6). So these past few weeks, what we have been reading and studying is actually a dying man's last letter. If you were writing your very last message to your loved ones, what would you write about? What would you emphasize? What final word or instruction will you give before you finally go? I am sure most of us would include what we think are the most important ones. In this letter, we have seen many of Paul's final exhortations and instructions. This fourth and last chapter acts as the climax of his two letters to his spiritual son, Timothy. **What we will see here is a final call to faithfulness. A call to fight the good fight. A call to remain faithful.** So if you have your Bibles with you, turn with me to 2 Timothy 4:1-8. Let me take this opportunity to encourage each one to bring your Bible and have it opened during this time of our worship service. I think it makes a difference seeing the sermon's whole passage in its larger context. Feel free to use the Bibles on the pews as well; the page numbers are found on the bulletin. So 2 Timothy 4:1-8. We read the first verse of this last chapter, Paul writes **verse 1: I charge you in the presence of God and of Christ Jesus, who is to judge the living and the dead, and by his appearing and his kingdom.** In this climactic section, Paul gives a final charge, a final solemn exhortation, a final command or instruction. And we can see two descriptions of the nature of this charge. First, it is not merely human, it is a divine charge: "in the presence of God and of Christ Jesus." It is a reminder that what Paul will be giving as a final command is not of human origin, it is from God Himself. These words are divinely inspired: "breathed out by God" alongside all Scripture, just as he mentioned in the previous verses (2 Tim 3:16-17). Second, it is a royal or kingly charge: "by his appearing and his kingdom." It comes with king Jesus's authority and power. It comes as a royal decree to be carried out in God's kingdom by official ambassadors. That term "appearing" there—we have seen it back in chapter one referring to Christ's first coming. In 2 Timothy 1:9-10: we read that our salvation is "not because of our works but because of his own purpose and grace, which he gave us in Christ Jesus before the ages began, and which now has been manifested through the appearing of our savior Jesus Christ, who abolished death and brought life and immortality to light through the gospel." Christ appeared the first time to become our savior: to die on the cross in our place and gain the victory over sin and death through his resurrection. I say the first time because this "appearing" in our text also includes the understanding that Christ will appear a second time. Jesus will return, as this first verse says, "to judge the living and the dead." In his next appearing, Jesus Christ will come as judge and king. This is important to remember. **These two characteristics of the charge, divine and kingly, make it extremely pressing and weighty.**

So what was this divine and kingly charge given to Timothy? It is a two-part charge. The first begins in **verse 2: preach the word; be ready in season and out of season; reprove, rebuke, and exhort, with complete patience and teaching.** The main imperative verb there: preach. It is a semi-technical term basically meaning "to publicly proclaim with authority" or "to be a herald." The herald is that official that proclaims the king's message or decree to everyone in the kingdom. And what is the king's message that Timothy was to preach, to herald? He was charged to preach "the word." That word that Paul just previously described. **2 Timothy 3:16: All Scripture is breathed out by God and profitable for teaching, for reproof, for correction,**

and for training in righteousness. Those “sacred writings” that he was acquainted with since childhood (2 Tim 3:15).

That “word of truth” that should be handled rightly (2 Tim 2:15). That “word of God” that is not bound (2 Tim 2:9). Timothy is to preach the same “word” that Paul himself preached: the gospel of Jesus Christ. 2 Timothy 2:8: Remember Jesus Christ, risen from the dead, offspring of David, as preached in my gospel. And again in 2 Timothy 1:10-11: “the gospel, for which I was appointed a preacher and apostle and teacher.” Timothy was not charged to preach a motivational message, nor a social commentary, nor a promotional speech about his church, not even his own personal testimony. **He was to preach God’s Word and it alone.** And he must do it “in season and out of season,” not dependent on how he or his listeners feel at the moment. **Even in the difficult times or even when facing opposition or persecution, the man of God must proclaim and handle rightly the truth of God’s Word.** Since Scripture is profitable for teaching, he should teach it. Good for reproof and for correction, he should use it to reprove and rebuke those who continue to disobey it living in sin. Beneficial for training in righteousness, he should use it to exhort, instruct, encourage, equip believers to righteous living. And all these must be done **with complete patience.** Then Paul adds the background, the reason to faithfully preach the word. Verses 3 and 4: **3 For the time is coming when people will not endure sound teaching, but having itching ears they will accumulate for themselves teachers to suit their own passions, 4 and will turn away from listening to the truth and wander off into myths.** The man of God must preach the word because people will begin to reject and turn away from it. You might think the people in view here are unbelievers outside the church. But sadly it refers mainly to those who profess to be believers and yet start to turn away from the truth of the gospel. Their ears become itchy to truth because it starts to be inconvenient or hard to follow. Or because it confronts them of their sin and lustful desires they do not want to let go. They start cherry-picking: hearing only those parts they want to hear but not the whole counsel of God’s Word. And so they also choose their own teachers. Earlier, Paul has actually given names of some who have done this. 2 Timothy 2:17-18: **Among them are Hymenaeus and Philetus, who have swerved from the truth saying that the resurrection has already happened. They are upsetting the faith of some.** They have exchanged truth for myths and false teaching. Timothy must not be one of them. He must be a preacher faithful to the truth and sound teaching that is found in all God-breathed Scripture.

Let me stop here and reflect on this first part of this charge to Timothy. This mainly applies to those who are called to pastor and to preach in the church. Those like Timothy who is a “worker approved by God” (2 Tim 2:15) and “the Lord’s servant” (2 Tim 2:24). They are especially called by God to labor and bear God’s Word on his people. So someone may ask: “Brother JP, I am not a pastor or a preacher in the church, how can this apply to me then?” Well, I could think of at least two ways how this charge can also apply even to those not called to the pastoral or preaching ministry. First, while preaching may be a distinct formal act and not all are to preach, **every Christian is still commanded to proclaim and speak God’s Word to others especially their fellow believers.** Ephesians 4:25: **Therefore, having put away falsehood, let each one of you speak the truth with his neighbor, for we are members one of another.** Even if it is difficult, a Christian friend caught in sin needs to be reprovved, a fellow church member needs to be rebuked for wrongdoing. We are all called to exhort or encourage from God’s Word whether in our conversations or in our prayers for one another. Are we doing that? That’s the first way. The second way is that this is a call to **avoid having those itching ears. All faithful believers not only tolerate but desire sound doctrine.** They do not turn away from listening to the truth. Are you starting to become a cherry-picker who only

wants to hear and obey what you like? Are you beginning to wander off into false teaching because sound teaching confronts the sin that you still love and cling to? Watch out! We should love hearing and obeying God's Word even when it feels inconvenient or becomes hard to follow. We all have to be teachable, reprovable, correctable, and trainable to righteousness. This is our charge as well.

The second part of the charge begins in **verse 5: But as for you, always be sober-minded, endure suffering, do the work of an evangelist, fulfill your ministry.** I like that translation: "sober-minded." I think it captures well the contrast Paul is making here. Anyone who has been around drunk people will understand. You cannot expect them to act or speak reasonably. They can even be easily tricked to do very silly things. Their ability to judge, comprehend, or respond rightly is weakened if not totally gone in that condition. Paul is saying, "Do not be like a drunk person! Be sober in your thinking." Those with itching ears are like drunk people falling for made-up stories and silly things. But as for you, be right in your thinking and practice self-control. **Endure suffering and do the work of an evangelist** even when some oppose you and persecute you—and they will for they will hate the truth. They will reject the good news you are proclaiming, but even then proclaim it boldly. **Romans 1:16: For I am not ashamed of the gospel, for it is the power of God for salvation to everyone who believes.** Paul wraps up all these instructions in a simple and direct way: **fulfill your ministry.** This was the complete charge to Timothy as a young pastor and preacher. **Faithfully preach the Word and faithfully shepherd God's people.** Just like with the first part, there is a reason for this call to Timothy. Paul writes: **6 For I am already being poured out as a drink offering, and the time of my departure has come.** Can you visualize the image he is giving here? In **Numbers 15:24**, the law instructs: **In the Holy Place you shall pour out a drink offering of strong drink to the Lord;** the ceremony involved emptying the vessel on God's altar. Paul's life is about to be offered in a similar way. He is writing this letter in chains in Rome and it will not be too long after this that he will be put to death by the Roman emperor. This whole solemn charge is being given by a passing father to his son, by a dying teacher to his student. Paul's earthly mission is coming to an end, and Timothy will continue the ministry that he has begun. In this climax of emotions come the next stream of words of **verse 7. I have fought the good fight, I have finished the race, I have kept the faith.** Paul had written something similar in his first letter. **1 Timothy 6:12: Fight the good fight of the faith. Take hold of the eternal life to which you were called and about which you made the good confession in the presence of many witnesses.** In that previous letter it was a clear exhortation. But in this last letter, Paul makes it personal. They were not imperative verbs. They did not take the form of commands or instructions. But Timothy upon reading those words understood what his spiritual father was telling him. Those words were not mere reflections of an old dying man. They were words of confident joy—resulting from a life of ministry fulfilled. At the same time, they were also words of exhortation. Paul is saying, "Timothy, I have done it. Now, do as I have." I believe Timothy heard it, and so should we.

Unlike the first part, it is not difficult to see how this charge also applies to those who are not called to be pastors and preachers. Again, I could think of at least two ways how every Christian can heed this charge. First, **believers should follow the godly example of faithful men and women before us.** We should learn from them: imitate their faith and godliness, avoid their mistakes and failures. The Old and New Testaments record many examples for us, and church history can provide a long list of faithful men and women for us to emulate. As Timothy learned from and followed Paul, we should desire to do the same from a more mature believer. Is there such a person in your life right now you can learn from and emulate? Are

you learning from the lives of God's people who have gone before us? The second way is similar, just the role is reversed. If you are an elder, a preacher, a teacher in the church; if you are a church planter or a missionary; if you are a parent with children, a man who knows a younger guy, a woman who knows a younger lady, then **strive to be an example of Christian faithfulness**. The list I gave just now should include all Christians—every believer can set an example of faithfulness to others. Every Christian can be a Paul to a Timothy. This is part of Christian discipleship—being a disciple and making disciples of Christ. Is your life an example of Christian faithfulness? Are you fulfilling the ministry God has called you to? Are you making disciples of Christ? If you cannot answer these questions, seek the Lord to help and empower you in this regard.

Paul ends this divine and kingly charge with the hope of reward—of eternal life. **8 Henceforth there is laid up for me the crown of righteousness, which the Lord, the righteous judge, will award to me on that day, and not only to me but also to all who have loved his appearing.** There is a reward, God's own righteousness, awaiting the faithful which the Lord himself will bestow on that last day. And it is reserved not only for Paul, the great apostle, but for all believers: **all who have loved his appearing**. The same term "appearing" we have seen in the beginning shows up again here at the end. But this time there is an action required: love. On that final day of judgment, the faithful will prove they have loved the Lord's appearing. They have not only loved his first appearing as savior, but also his second one as judge. They have longed for that final day to come. The righteous judge, our Lord Jesus, is coming back and he will judge both the living and the dead. Are you afraid? If you are here this morning and do not believe in Jesus yet, then you should be. For when Jesus returns, he will come as a righteous judge who will punish evil doers and unrepentant sinners. **Matthew 10:28: And do not fear those who kill the body but cannot kill the soul. Rather fear him who can destroy both soul and body in hell.** On that day of judgment, no more chance will be given for belief and repentance. Do not wait! There is a way now to escape punishment. **There is a way to be reconciled with God: only one way. That is through faith in Jesus Christ, in his sacrificial death on the cross and his resurrection. Believe now and turn away from sin. Surrender yourself to Jesus.** If you are a believer and a follower of Jesus, then you should not fear. However, the question for you is this: do you love his appearing, his first and his second? Are you continually grateful for his sacrifice on the cross? And do you long for his return? Many of us probably can answer the first question but have not thought much about the second. **Look forward to Christ's second coming. Learn to love his second appearing.** And when our King returns to judge the living and the dead, will he find you faithful? Will you have faithfully fulfilled your ministry? Will you be able to confidently and joyfully say with the apostle Paul, **"I have fought the good fight, I have finished the race, I have kept the faith"** (2 Tim 4:7)? The Lord Jesus Christ is returning soon as a righteous judge. Let us fight the good fight. Let us finish the race. Let us keep the faith. Let us remain faithful until he comes or until he takes us home like those faithful saints who have gone before us. And when we finally stand in the presence of God and our Lord Jesus Christ, may each one of us be able to hear those words from **Matthew 25:21: "Well done, good and faithful servant. You have been faithful over a little; I will set you over much. Enter into the joy of your master."** Such precious words from a gracious and merciful master. Let us pray.